

## 支援の方法

●外務省の対ユネスコ任意拠出金(「ユネスコ日本信託基金」)を通じて支援。ユネスコから提出のあったプロジェクト・プロポーザル(案)を審査して承認の可否を決定、プロジェクト開始。ユネスコはプロジェクト実施中は進捗報告書、終了時は終了報告書を提出。

## プロジェクト・プロポーザル概要

- プロジェクト名: Supporting Africa and SIDS to Benefit from AI Technologies while Addressing Ethical Risks (倫理リスクに対処したAI技術に関するアフリカ及び小島嶼開発途上国(SIDS)支援)
- 目的・期待される成果: アフリカ及び小島嶼開発途上国(SIDS)で、AIの倫理的、公平な開発・利用を実現することによりSDGs等の開発目標達成に貢献。ユネスコ勧告で示されたAIに関する倫理影響評価(ethical impact assessment)・準備評価方法(readiness assessment methodology)、AIの倫理関連施策のモニタリングメカニズム等キャパビルツールを具体化し、AIの倫理分野で支援が必要な開発途上国における勧告の効果的な実施を推進。
- 実施期間: 36ヶ月(2022年2月より)
- 予算規模: 「ユネスコ拠出金」から50万米ドル(アフリカ25万米ドル、SIDS25万米ドル)
- 具体的内容
  - 1年目: ユネスコ事務局がアドバイザーグループとともに本プロジェクトで用いる具体的なキャパビルツールの検討や調査等を実施。ドナー(日本)と協議し、具体的対象国を決定。
  - 2年目: キャパビルツールを6か国(アフリカ、SIDS3か国ずつ)で試験実施。
  - 3年目: 2年目の結果をもとに、対象国をさらに拡大して12か国(アフリカ、SIDS6か国ずつ)で実施。